

辺野古通信

第14号 2020年7月19日



2/6 横浜集会



4/22 防衛省前

発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)
沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

辺野古「変更承認申請」に意見書を!

■新型コロナの感染拡大で辺野古通信の発行もしばらく中断。公共施設のリーススペースも印刷機も使用できなくなり、屋内集会はもちろん、会議も開くことができず。久しぶりの通信、4月の動きから。

■4月7日：首都圏に特措法に基づく緊急事態宣言。政府が外出自粛や店舗の営業休止を呼びかけるさ中も辺野古の海への土砂投入作業は止まることはなかった。

■4月13日：辺野古住民訴訟那覇地裁が4人のみ原告適格を認める不当判決。ただし判決文中で、大浦湾の軟弱地盤を「公知の事実」とし設計変更の際の「環境アセスのやり直し」の必要性に踏み込んだ。

■4月15日：現場の感染拡大を危惧するオール沖縄会議が「抗議行動中断」という苦渋の決断を下したが工事は止まらず。

■4月16日：とうとう海上の作業員から感染者が出て、17日ようやく工事は止まった。兵士の感染拡大を恐れる米軍からも警告が発せられたことも影響した。

■4月20日：沖縄の新型コロナ感染者が100人を超え県庁職員も感染。危機感を募らせた知事は沖縄独自の緊急事態宣言。

■4月21日：朝8時半過ぎ、沖縄防衛局は「設計変更申請書」を、県庁ではなく沖縄県北部土木事務所に持ち込んだ。この意表を突いた「設計変更申請」に合わせたかのように大浦湾で船に積み込まれていた土砂が陸揚げされ辺野古側に投入された。

■4月22日：「辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会」が呼びかけた防衛省前緊急抗議行動に沖縄から電話メッセージを寄せた山城博治さんは「新型コロナの対策に沖縄県挙げて必死になっているとき、背中から爆弾を投げつけるかのような政府の仕打ちに、悲しさと怒りとむなしさが交差する」と安倍政権を激しく糾弾した。感染対策を講じながら展開された緊急行動には80人が参加、抗議の声

を上げた。(「設計変更申請」は次頁参照)

■6月7日：沖縄県議選(定数48)が投開票され県政与党が25対23で辛うじて過半数を制した。「薄氷の勝利」と報道されたが、公明など辺野古反対の野党議員もいるので「辺野古反対」の民意が改めて示されたことに変わりはない。しかし議席を伸ばした自民党が経済界を通じて与党内の保守系議員の抱き込み分断工作を強めている。30日の議長選では与党統一候補が与党内の「会派おきなわ」から立候補した赤嶺昇議員に敗れ、4つある委員会の3つの正副委員長を野党などに奪われる事態に。今後の県政運営に不安を残した。

■6月19日：国地方係争委はサンゴ移植を巡り農水相が沖縄県知事に防衛局の移植申請を許可するよう指示したのは適法と結論。国に付度し自治介入を容認。新たな裁判闘争に展開する可能性が高い。

■6月25日：沖縄県は防衛局に対しジュゴン保護に向け工事停止を求める三度目の行政指導。防衛局の調査で本年2月、3月に大浦湾でジュゴンの鳴き声が確認され、生息している可能性が高まっている。

■防衛局は工事進捗をアピールしているが、軟弱地盤や活断層がある大浦湾側は、知事が「設計変更申請」を認めない限り進めることができない。「震度1~3の軽微な地震で護岸が崩壊する」と予測する専門家の調査結果も出てきた。本当に辺野古新基地は建設できるのか？自民党内や米議会からも疑念の声が出始めている。

■知事の「設計変更申請」不承認を後押しするため知事あてに意見書を全国から！

■みなさんから寄せられた辺野古カンパは累計2,910,218円(7/1現在)。辺野古や安和棧橋、塩川港における阻止行動に役立ってます。引き続きカンパを！
郵便口座 00210-0-2021 沖縄連続講座



7/12（日）午後、東京・全水道会館で「設計変更申請に意見書を書こう！キック・オフ集会」が開催され、感染対策を講じて入場も制限しながら、約 80 人が参加。主催は、「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」も参加している「辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会」（埋めるな！連）。沖縄平和市民連絡会の北上田毅さん（土木技術者）が沖縄からオンライン講演。Youtube でライブ配信。数百人のアクセスがあり、質疑で名古屋在住の視聴者から北上田さんへの質問も寄せられた。

オール沖縄会議でも全国に意見書の提出を呼びかけている。前回 2013 年の埋め立て承認申請では 3371 通の意見書が全国から寄せられている。沖縄に呼応し、前回は上回る意見書を全国から沖縄県知事へ集中し、玉城知事の「不承認」を後押ししよう！

*北上田毅さんのオンライン講演は以下のサイトから視聴できます！

<https://www.youtube.com/watch?v=woyWN2A-7nM>

提出期間は公告縦覧開始から 3 週間以内

沖縄防衛局がコロナ禍のさなかの 4/21、沖縄県に提出した辺野古新基地建設の「設計変更申請書」について、沖縄防衛局と沖縄県で補正（56 項目）と再補正（3 項目）のやり取りがあり、7/13 に沖縄県が「形式審査終了」を公表、今後「公告縦覧」（期間は三週間）し、利害関係者の意見を募る手続きに入る。具体的な公告・縦覧の期間は沖縄県土木建築部海岸防災課の HP で公表される。

あなたも利害関係者。意見書を書こう！

右の記入例も参考に。「埋めるな！連」が作成したカラー・リーフレットが辺野古新基地建設の問題点を簡潔に整理している。

以下のサイトからリーフレットをダウンロードできる。

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/200709henokoikennsyoannai.pdf>

問題だらけの埋立工事を止めるために、あなたの声を沖縄県知事へ！

辺野古新基地建設工事の問題点は、①沖縄の人々の民意に反する②莫大な費用（＝税金）と途方もない工期をかけてもいつ完成できるかわからない③沖縄の海と山、世界的にも貴重な生態系に破壊的な影響を与える④護岸の崩壊や滑走路の沈下など米軍基準にも反するような構造的な欠陥がある—以上 4 点に整理できる。北上田さんの講演映像やリーフレットを参考に、意見書を書こう！

私たちは納税者。湯水のごとく税金を投入して強行されている辺野古新基地建設に対し「利害関係者」として「意見書」を出せる。

オール沖縄会議の呼びかけに答え、ひとりでも多くの方が「意見書」を沖縄県に寄せていただくことを呼びかけます！

<p>辺野古新基地建設事業・公有水面埋立 変更承認申請に係る意見書（記入例）</p>	
<p>沖縄県知事 玉城 デニー 殿</p>	<p>2020年7月〇〇日</p>
<p>（提出者）住所 神奈川県横浜市〇〇区〇〇町〇〇番地 氏名 〇〇 〇〇</p>	
<p>【利害関係の内容】 辺野古新基地建設事業には、莫大な予算が投入され続けています。コロナ禍で生活不安を抱える納税者の一人として、無関心ではられません。利害関係者として意見を述べさせていただきます。</p>	
<p>【意見】 沖縄県知事は、沖縄防衛局の公有水面埋め立て変更申請を不承認としてください。</p>	
<p>【理由】 すでに「普天間基地の早期の危険性除去」という沖縄防衛局の辺野古新基地建設理由は、破綻しています。大浦湾側の軟弱地盤や活断層が存在し、無理して形ばかりの地盤改良工事をして護岸を建設しても、「震度 1~3 の地震でも崩壊する」とさえ言われています。この先、いくら巨額の税金を投入して埋立工事を続けても、新基地が完成する見込みはないと言わざるを得ません。新型コロナの感染が拡大する中、そんな無駄な公共工事に税金を投入する余裕など、ないはずですよ。 これまでの土砂投入で、ウミガメの産卵場所も、ジュゴンの餌場も無くなり、大小の希少生物、サンゴが破壊され続けています。これ以上の自然破壊は止めるべきです。</p>	
<p>そもそも沖縄の人々が繰り返し「辺野古埋め立てノー」の民意を示しているのに、これを無視して国策を押しつけるのは間違っています。</p>	
<p>知事は、自信と確信をもって、変更申請を不承認とし、辺野古の工事を止めてください。</p>	

イージス・アショアが白紙撤回！？ つぎは辺野古だ！

日本のミサイル防衛政策の柱とされてきた秋田と山口へのイージス・アショア配備計画が、6月に突然中止となった。地元の根強い反発と膨らむ建設経費、延びる工期、発射後にブースター部分を安全な場所に確実に落下させられない技術的困難、代替地も無い—これらが計画中止の理由とされた。すでに1787億円が契約済みで、196億円支出されている。米国への違約金も発生すると言われている。「敵基地攻撃力保有」論議へ論点をすり替え、計画中止による莫大な国費損失の責任を回避するのは許されない。

「辺野古唯一」には固執する「二重基準」

イージス・アショア配備中止を受けて、玉城知事は「コストと期間を考えたら辺野古の方が無駄ではないか」とコメントし、辺野古新基地断念を求める声明を発した。確かに配備中止理由は、辺野古にすべて当てはまる。いや、建設費用（9300億、県試算で2兆5,500億）も工期（12年以上）も技術的困難（軟弱地盤、活断層）も地元の根強い反対（県民投票、知事選等）も、イージス・アショアをはるかに上回る。近す



不誠実な地元説明、税金の無駄使い、無用の長物で、イージス・アショアは計画中止。辺野古も同じです。軟弱地盤が発見され、建設の見通しが無いのに新たな税金投入。環境を破壊し、沖縄県民の意思を無視する工事が、なぜ許されるのでしょうか。今すぐ埋め立てを中止！ 新基地計画を断念！ アイダヤ、ヘビは辺野古です！

ぎてミサイル攻撃の標的になる脆弱性も指摘され、軍事的合理性もない。「二重基準」は明らか。配備中止は、日米合意も理由があれば白紙に戻せることを示した。自民党の防衛相経験者からも米議会内からも辺野古見直しの声が出始めた。

「つぎは辺野古だ！」総理・防衛相宛てハガキを！

神奈川平和運動センターや反基地運動団体が辺野古埋め立て中止を求める安倍首相・河野防衛相宛てのハガキ要請運動を呼びかけている（写真）。無駄な辺野古新基地建設工事も、直ちに中止すべきだ。

恐れていた事態が現実！ 在沖米軍基地から感染急拡大

琉球新報 2020/07/11

朝刊 P7 国際

在沖米軍に対する新型コロナウイルス感染防止対策を求める決議

令和2年7月9日、在沖米軍はキャンプ・ハンセンで複数の関係者が新型コロナウイルスに感染したと発表した。また、普天間飛行場でも新たに1人の感染が判明し、米軍関係者の感染者数が合計6名となっている。

さらに、在沖米海兵隊が新型コロナウイルス感染症対策として人事異動および転勤者を対象に7月以降、基地の外にある北谷町内のホテルを滞在場所として使用していることも判明した。

このような状況の中、米海兵隊太平洋基地は感染者らのプライバシーを保護する観点から今後、報道機関に新たな

令和2年7月9日、在沖米軍はキャンプ・ハンセンで複数の関係者が新型コロナウイルスに感染したと発表した。また、普天間飛行場でも新たに1人の感染が判明し、米軍関係者の感染者数が合計6名となっている。

さらに、在沖米海兵隊が新型コロナウイルス感染症対策として人事異動および転勤者を対象に7月以降、基地の外にある北谷町内のホテルを滞在場所として使用していることも判明した。

このような状況の中、米海兵隊太平洋基地は感染者らのプライバシーを保護する観点から今後、報道機関に新たな

感染者に関する声明を発表しないと説明した。県内でも新型コロナウイルスの新たな感染者が約2カ月ぶりに確認され、感染拡大が懸念されており、在沖米軍に對しても感染防止対策の徹底が求められる。

よって、本県議会は下記の事項が速やかに措置されるよう強く要求する。

- 1 在沖米海兵隊の県外・国外からの人事異動者を対象に、民間ホテルで2週間の経過観察を行うこと
- 2 米軍関係者の感染者数、濃厚接触者数および行動履歴など具体的な情報を直ちに開示すること
- 3 日米地位協定を抜本的に改定し、検疫法などの国内法を適用すること

上記のとおり決議する。

令和2年7月10日
沖縄県議会
駐日米国大使、在日米軍司令官、在日米軍沖縄地域調整官、第3海兵遠征軍司令官、在沖米軍総領事宛て（意見書は、内閣総理大臣・外務大臣、防衛大臣、沖縄および北方対策担当大臣宛て）

▲自民党も含め全会一致の県議会決議

恐れていた事態が起こった。在沖米軍関係者から7/17現在141人も新型コロナウイルス感染が確認。基地の中だけでなく、市街地の飲食店や公園での大規模なパーティまで開いていたというから、驚きあきれる。地域住民にも感染が広がっている可能性があり、すでに米兵を乗せたタクシー運転手の感染が確認されている。最悪なのは米軍が感染者の行動履歴等の詳細を感染症対策の陣頭に立つ県に十分開示しないこと。感染者数さえ当初は公表を拒否し政府もそれを容認していた。

以前から日本の検疫体制が及ばない米軍基地が新型コロナウイルスの発生源になりかねない危険性が指摘されていた。他国と比較しても不平等な日米地位協定があり、日本の検疫体制の「抜け穴」を米兵が自由に往来している。世界一の感染者数を抱える米国から来訪するのだから、感染が拡大しても不思議はない。日本政府は米軍の言いなりで何の対策も取らなかった。例えば韓国では在韓米軍の兵士もPCR検査を受け情報公開し、豪州では米軍のローテーション配備の時期や規模も協議している。

政府は当初「必要な情報は共有されている」（7/13菅官房長官）と問題視しなかった。日米の軍事植民地・沖縄の現実がここにも象徴されている。全基地を閉鎖し、辺野古も含めた基地関連工事も直ちに中止すべきだ。



*新型コロナウイルスの感染拡大で屋内集会が開けなくなる直前の講演会。報告が遅れました。

2/6 (木) 夕刻、横浜市技能文化会館にて「ストップ！辺野古埋め立て 2・6 横浜講演会～沖縄のユーチューバーが語る“辺野古のウソとホント”」が開かれた。主催は「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」(以下、結ぶ会)。会場ほぼ満席、約 100 人が参加した。

初めに 1 月下旬に辺野古の座込みに参加した結ぶ会メンバーが製作した 13 分程度の映像上映。辺野古・安和の抗議行動の様子が映し出された。主催者挨拶の後、講師の多嘉山侑三さん登壇。多嘉山さんは名護市在住、音楽教室を運営するミュージシャンでもあり、ユーチューブチャンネル「うちなーありんくりん TV」を主宰している。

辺野古を無関心層にどう伝えるかが重要

講演の冒頭、多嘉山さんは、「きょうは初心者向けのお話です。辺野古の問題を人に伝えるのに、どのように話せば理解を広げられるのか、辺野古の問題を知らない人たちに伝わるかという視点で聞いてください」と語り始め、概要編・背景編・民意編・埋立工事編・ウソ？ホント？編の順番に、「Q1 辺野古基地建設問題とは？」から「Q17 埋立工事の軟弱地盤改良工事の内容は？」「辺野古基地問題 ウソ？ホント？編」まで空欄に文字を入れていくクイズ形式で、パワーポイントを駆使し、自身の体験も交えながら 60 分ほど講演。会場からの質問にも丁寧に応答していただいた。

アンケートに寄せられた参加者の感想は「自分が知っているようで、曖昧にしか把握していなかったことが、自覚できた」「大変分かりやすい」「具体的な数字を挙げての説明は大きな説得力を持つ。大変有意義な講演だった」と評価する声が多かった。大多数の無関心層に、辺野古の問題をどのように伝え、理解を広げるか一日ごろから思い悩むことの多い私たちにとって大きなヒントになった。

大きな出来事—沖国大へり墜落と名護市長選

講演でも触れられたが、多嘉山さんにとって大きな出来事が二つある。一つは 2004 年 8/13 の沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事故。当時、多嘉山さんの一つ違いの弟さんが沖国大に通っていた。東京の大学で学んでいた多嘉山さんは、墜落事故のニュースに驚き、弟さんの安否が心配になり電話をかけた。「すごい音がした！米兵がいっぱい来ている！大変なことになっている！」と興奮気味に話す弟さんの声を聞いて無事を確認してホッとしたという。多嘉山さんが、沖縄の基地問題を改めて身近に感じた体験だった。

もう一つ、「いまの自分のすべての原点になった」大きな出来事が、2018 年 2 月の名護市長選で現職の稲嶺進さんが敗れたことだ。「このままでは沖縄は大変なことになる」という「焦りと危機感」を感じ、それまで政治を語ることはほとんどなかった多嘉山さんが、ツイッターの発信を始め、ユーチューブ・チャンネル「うちなーありんくりん TV」も開局。辺野古の問題を、多嘉山さん自身の言葉を借りると「ネトウヨにもわかる」わかりやすさで発信を始めた。軽快な音楽に乗せて、辺野古を巡る最新の情報を取り入れ、「辺野古移設で普天間返還の嘘」「税金バラマキ！辺野古埋立て利権」等々、図解入りで解説している。ぜひ視聴してほしい。

